

番号	112	水浴場記念碑 日本住血吸虫病研究所 片渕秀雄書		
所在地	みやき町江口 豆津地区			
災害別	日本住血吸虫病			
目的別	記念碑	建立年	昭和32年5月15日	
特記事項	(参考) ハンター博士之碑			



みやき町の豆津地区にある日本住血吸虫病対策のため造られた水浴場の記念碑。日本住血吸虫病は、ミヤイリガイの中で育った感染幼虫セルカリアが、水中で皮膚から体内に侵入し発症する。そのため、セルカリアに汚染された堀や川などで泳いだり水遊びをすることは感染を招く極めて危険なことであった。そこで当時の北茂安村では、子どもたちの安全のためプールを建設することとし、昭和29年5月に竣工した。この碑はその完成の記念に建立されたものである。なお、現在では、プールは取り壊され、その跡地とこの記念碑だけが残されている。

「水浴場築設の言葉 風光紫水の筑後川沿岸に位する、私たちの村北茂安は筑紫平野の豊穡に恵まれながらも、永い間 恐ろしい日本住血吸虫病に悩まされつづけて来ましたが、特に、豆津部落は此病原体の巢窟と言はれて来ましたが、此厄病絶滅について部落民は勿論、県や村有識者の心痛は一通りではありませんでした、依って先づ此病気に最も罹病し易い幼少年の健康を守り併せて楽しく遊ばせ育てる為には、此病気の媒介体である宮入貝の生

息する、堀や川に這入らないようにすることだ、ということが分かりましたので、県及び村当局は部落民の熱望に應えて、水浴場の築設を計画実施するに當り部落民は結束して工事の進捗に協力した、結果、此処に立派な親子水浴場の完成を見ることが出来ました、今後幼少年の皆が此厄病から逃れて、健康で明朗に成長することを念願し、次代の明るい村造りの礎石として役立つ人となり、此水浴場築設の目的を達成していただくことを祈りつつ、此処に水浴場記念の碑題をかかげて喜びの記念とします、

<日住絶滅>

北茂安村長 北原 定 北茂安村会議員一同 世話人(略)

着工 昭和二十八年四月二十一日 竣工 昭和二十九年五月十三日

工費 金壹百七拾萬円也 記念碑建立 昭和三十三年五月十五日 同上世話人(略)」



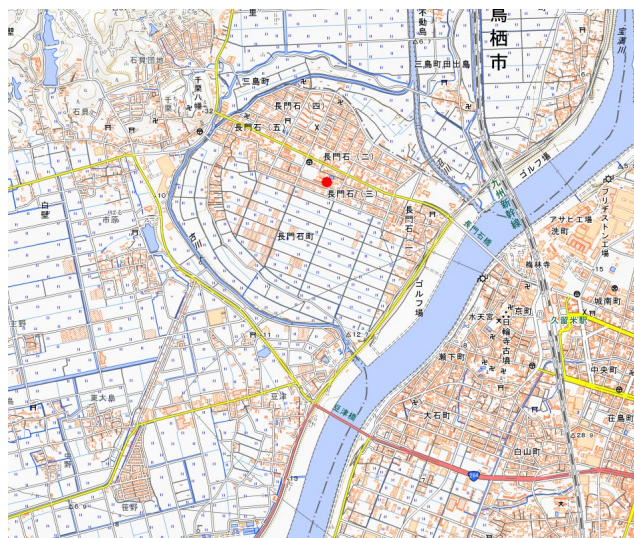
国土地理院電子国土 Web

(参考) ハンター博士之碑 久留米市長門石 長門石小学校

昭和22年、GHQの米軍熱帯病委員会委員として来日し、ミヤイリガイ撲滅に尽力したジョージ・ウィリアム・ハンター博士の胸像と顕彰碑が、豆津地区にほど近い、久留米市長門石の長門石小学校に建立されているので参考までに紹介したい。



「当長門石住民は数百年前から日本住血吸虫のため生命の危険にさらされて来た 昭和二十年終戦の結果連合軍寄生虫学部長ハンター博士は当地方がこの風土病の惨害特に深刻であることに同情以来当地におけるこの病気撲滅の試験地として昭和二十五年六年の二ヶ年にわたって博士自ら先頭に立ち中間宿主である宮入貝殺貝のため液状体サンドブラストを散布すること四回に及び日本住血吸虫撲滅に始めて科学的メスを振るわる



国土地理院電子国土 Web

この二ヶ年にわたる博士の献身的な努力と指導は住人一同齊しく感謝感激したところで宮入貝殺貝の目的は九十八パーセントという驚異的な成績を挙げ私たちの生活に非常に明るい希望を与えられた これ偏にハンター博士の国境を越えての人類愛の発露によるもので偉大な功業を記念するため住民^{こぞ}挙って茲に銅像を建設しハンター博士の高徳を永久に讃えんとするのである

昭和二十七年七月十五日 長門石住民一同」